

水戸ファンドラップ 四半期通信

～ 運用担当者からのお知らせ ～

作成基準日：2025年6月30日

【目次】

	ページ
1. 運用コース別・設定来価額推移グラフ	2
2. 資産別パフォーマンス	2
3. 資産別投資環境見通し	
国内株式、先進国株式	3
新興国株式、世界の債券	4
ワールドリート、コモディティ	5
ドル・円	6
4. 主要国の金融政策	6
5. 水戸ファンドラップの情報発信	7

<ご案内>

■本資料は、運用担当者が作成し、四半期ごとに水戸ファンドラップのお客さま向けにお届けする情報提供資料です。

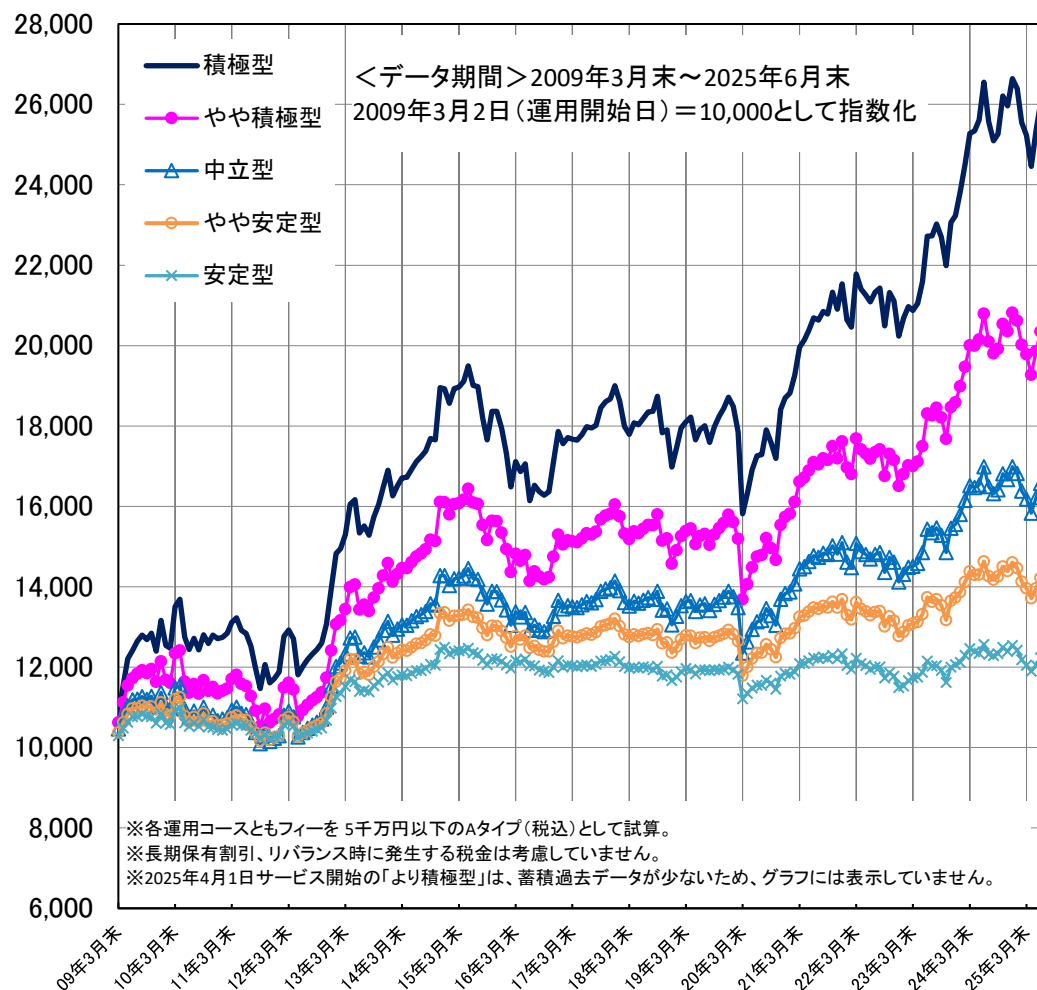
■水戸ファンドラップの情報発信として今回は、「水戸ファンドラップ四半期運用報告書の発送につきまして」と「動画コンテンツ『水戸ファンドラップ・マンスリーレポートについての解説』のご案内」を掲載いたしました。詳しくは本資料7ページをご覧ください。

水戸証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第181号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

【審査部審査番号 2507009号】

1. 運用コース別・設定来価額推移グラフ<月足>



<試算値> (「より積極型」はサービス開始日の2025年4月1日=10,000、25年3月末のデータはありません)

	より積極型	積極型	やや積極型	中立型	やや安定型	安定型
25年3月末	—	25,227	19,782	16,184	13,956	12,044
25年4月末	9,633	24,455	19,273	15,834	13,710	11,899
25年5月末	10,109	25,355	19,862	16,221	13,962	12,045
25年6月末	10,442	26,054	20,351	16,573	14,225	12,235

<騰落率>

25年4月	▲3.67%	▲3.06%	▲2.57%	▲2.16%	▲1.76%	▲1.20%
25年5月	+4.94%	+3.68%	+3.06%	+2.44%	+1.84%	+1.23%
25年6月	+3.29%	+2.76%	+2.46%	+2.17%	+1.88%	+1.58%

2. 資産別パフォーマンス<円換算>

	24年7-9月	24年10-12月	25年1-3月	25年4-6月	平均
国内株式	▲4.8%	+5.3%	▲3.7%	+7.9%	+1.2%
国内債券	+1.5%	▲1.4%	▲2.4%	▲0.2%	▲0.6%
先進国株式	▲5.7%	+11.0%	▲7.2%	+8.1%	+1.6%
先進国債券	▲5.8%	+4.9%	▲2.7%	+1.5%	▲0.5%
新興国株式	▲2.5%	+2.6%	▲2.8%	+6.6%	+1.0%
新興国債券	▲6.2%	+9.2%	▲3.3%	▲0.7%	▲0.2%
ワールドリート	+3.1%	+0.8%	▲2.9%	▲0.8%	+0.1%
コモディティ	▲10.8%	+10.3%	+2.9%	▲6.1%	▲0.9%
ドル・円	▲11.4%	+10.8%	▲5.5%	▲3.2%	▲2.3%

・資産別パフォーマンスの計算は下記のデータを使用

※資産別パフォーマンス<円換算>は、毎四半期末を基準とした期間3カ月の騰落率。

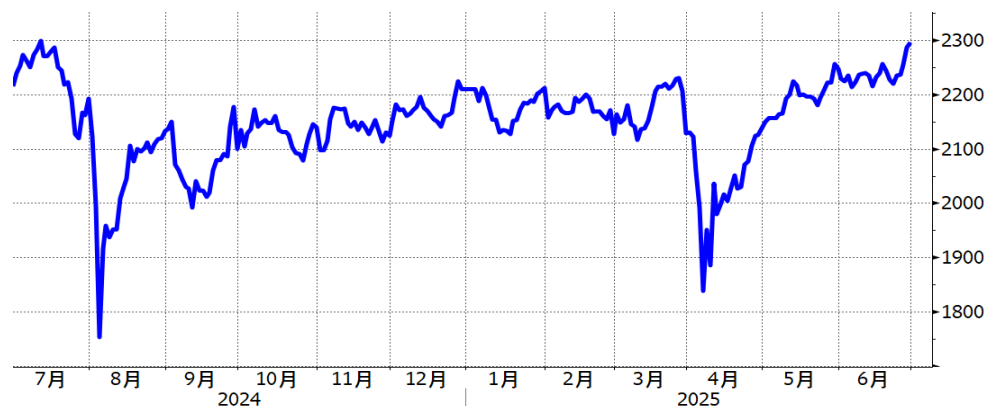
※【国内株式】～【コモディティ】の8資産は、Bloombergが算出する代表的な指数を使用。3～5ページも同様。

※【ドル・円】は、三菱UFJ銀行が算出する公表仲値(TTM)。6ページも同様。

(出所) Bloomberg、QUICKより水戸証券作成

8ページの重要な注意事項(「水戸ファンドラップ」の手数料およびリスク事項について)を必ずご覧下さい。

国内株式

米関税政策や
参院選の動向に注目

<4-6月レビュー>

■国内株式相場は、4月上旬に発表された米相互関税が厳しい内容であったこと等を受け、大きく下落しました。その後は、米国が関税政策に対する態度を軟化させたことや、日銀が物価見通しを下方修正したこと等により追加利上げ観測が後退したこと、上場企業の大規模な自社株買い等が支援材料となり、6月末まで上昇基調となりました。

<7-9月の見通し>

■国内株式相場は、高値圏で揉み合う展開を想定します。上場企業の自社株買い発表額が過去最高ペースとなっていることや、海外投資家の買い越し基調が続いていること等が、支援材料として期待されます。一方、足もとにかけての株価上昇で割安感が薄らいでいることや、米関税政策を巡る不透明感等は、相場の重しとなりそうです。

■固有の注目要因として、7月20日投開票の参院選が挙げられます。与党で非改選議席を合わせて過半数確保が勝敗ラインと思われますが、大敗すれば石破首相の退陣論が強まると思われ、要警戒です。

先進国株式

財政政策や経済データを
見極める展開か

<4-6月レビュー>

■先進国株式相場は、米トランプ政権による関税政策への警戒感等から4月上旬に急落しましたが、英国や中国等を中心に各国の貿易交渉が進展したこと等を背景に、大きく反発しました。その後は、トランプ米大統領の発言や中東情勢の動向に振られつつも、米ハイテク株や欧州株がけん引する形で堅調推移となりました。

<7-9月の見通し>

■米国株は、関税政策に対する不透明感は和らぎつつあるものの、米債務上限問題や財政赤字拡大等の財政政策に対する不透明感に残っていることから、様子見姿勢になりやすいと考えます。また、関税の経済に対する影響も表れていないこと等から、経済データや米連邦準備制度理事会（FRB）の行動を見極める展開を予想します。

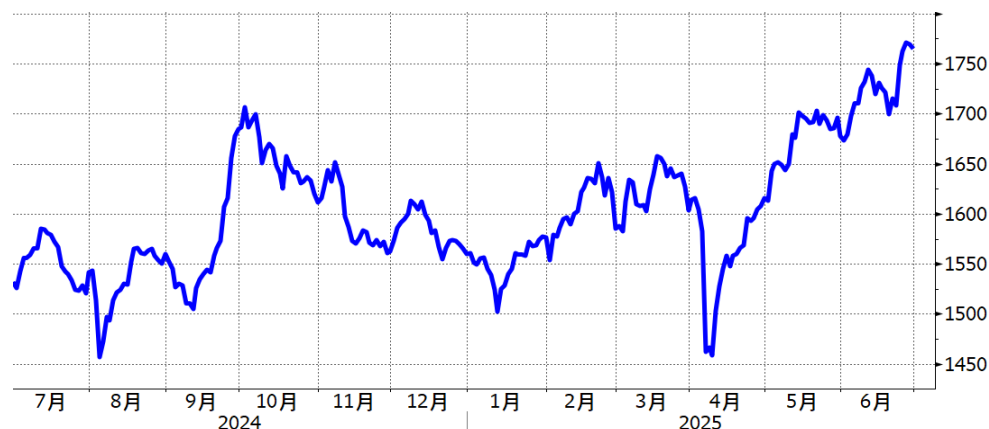
■欧州株は、利下げ期待が後退しつつあることは重しですが、ドイツを中心に財政支出拡大が期待されることや、トランプ米大統領を忌避した米国資産離れの代替先と考えられること等から、堅調推移を予想します。

チャートのデータ期間：2024年6月末～2025年6月末（出所）Bloombergより水戸証券作成

8ページの重要な注意事項（「水戸ファンドラップ」の手数料およびリスク事項について）を必ずご覧下さい。

新興国株式

中国当局の追加刺激策や
韓国政府の経済政策に注目



<4-6月レビュー>

■新興国株式相場は、4月上旬に米トランプ政権の相互関税を巡る米中貿易摩擦や世界経済への悪影響が懸念され、リスク回避の売りが広がりました。その後、米中貿易協議において、大幅に引き上げられていた関税率を、90日間それぞれ引き下げることが決定されたこと等を背景に投資家心理が改善し、買いが優勢となりました。

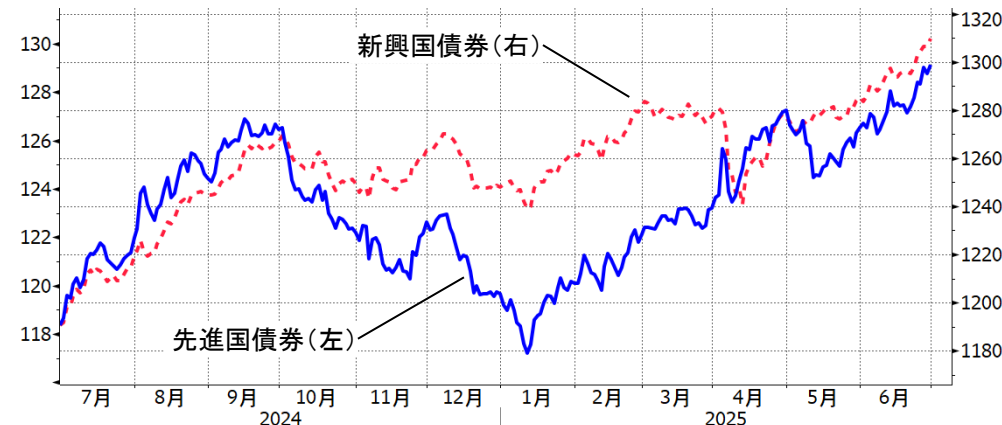
<7-9月の見通し>

■中国株は揉み合いの推移を予想します。5月の小売売上高が好調な結果だったことを受けた国内景気不安の後退や、中国当局による消費支援策が好材料視される一方で、根強い不動産不況が重しとなると考えられます。

■その他の国では、韓国の新大統領による経済政策への期待や、インドのインフレ率鈍化を好感した買いが集まる展開を予想します。ただし、米国の関税発動期限が迫っていることや、足もとの株価上昇で過熱感が意識されること等から、短期的な売り圧力の強まりには警戒が必要と考えられます。

世界の債券

米国の利下げペースや
米トランプ政権の政策に注目



<4-6月レビュー>

■先進国債券相場は、米関税引き上げを受けた金融市場の混乱や、米国債の格下げを受けた売りが広がる場面がありましたが、米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ観測の高まりを背景に堅調な推移となりました。

■新興国債券相場は、米利下げ観測や、新興国通貨高等を背景に堅調な推移となりました。

<7-9月の見通し>

■先進国債券相場は、米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ観測が下支えとなる一方、インフレへの警戒感が払拭されていないこと等から、当面は方向感を模索する展開を予想します。

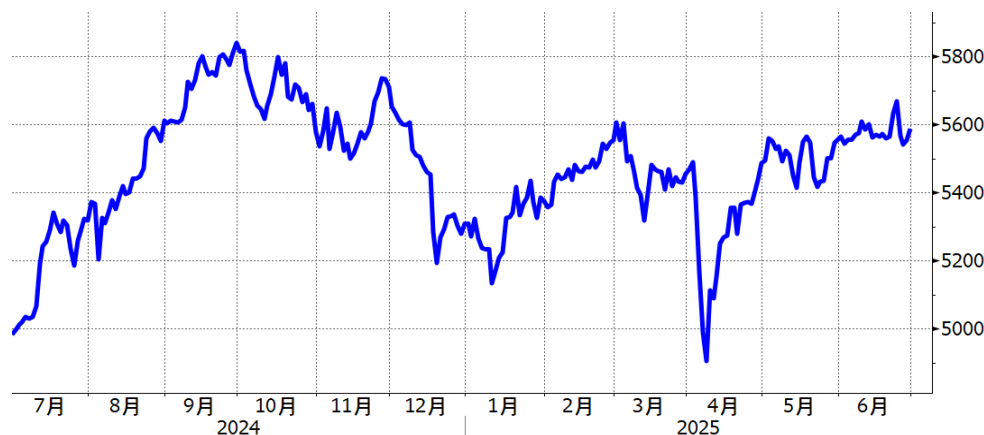
■新興国債券相場は、緩やかな上昇基調を予想します。足もとで新興国通貨高が進んでおり、新興国への資金回帰の動きが期待できる一方、米トランプ政権の関税政策を巡る警戒感等は、引き続き懸念材料になると思われます。

チャートのデータ期間：2024年6月末～2025年6月末（出所）Bloombergより水戸証券作成

8ページの重要な注意事項（「水戸ファンドラップ」の手数料およびリスク事項について）を必ずご覧下さい。

ワールドリート

財政悪化を背景とした
米金利の高止まりが重しに



<4-6月レビュー>

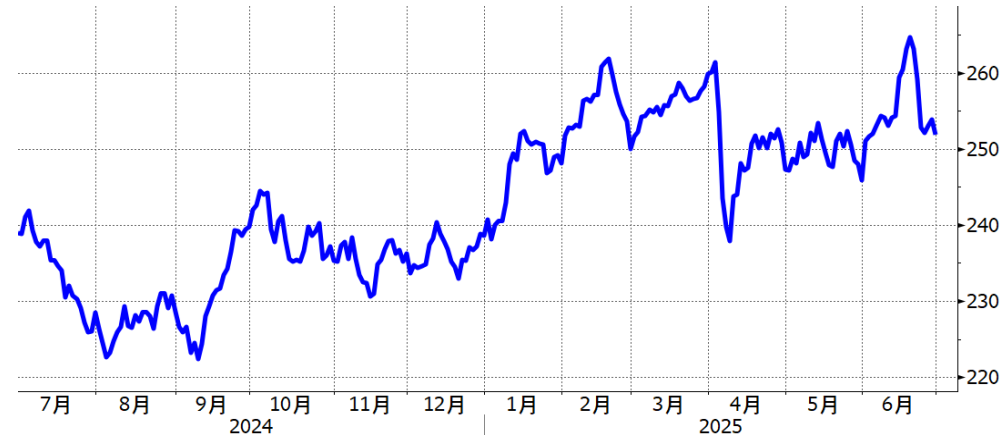
■ワールドリート相場は、米トランプ政権による関税への警戒等から4月上旬に急落しましたが、過度な懸念が後退したこと等により5月上旬に値を戻す展開となりました。その後は、米国株の上昇等が下支えとなるも、財政悪化懸念等を背景に米金利が高止まりしたことや、中東情勢の悪化等が重しとなり、上値の重い推移となりました。

<7-9月の見通し>

■ワールドリート相場は、上値の重い推移を予想します。銀行の貸出態度や商業用不動産の売買動向等のファンダメンタルズは回復を示しているものの、米財政悪化懸念を背景とした米金利の高止まりが想定されること等から、上値の重い推移を予想します。また、リートは景気への感応度が高い性質を持つため、景気減速懸念の高まりには注意が必要と考えます。
■Jリートは、緩やかな上昇を予想します。米関税政策への不透明感等を背景に、日銀による追加利上げ観測が後退していること等が下支えになると考えます。

コモディティ

地政学リスクから需給へと
市場の注目は変わろう



<4-6月レビュー>

■コモディティ相場は、米トランプ政権による関税政策や中東情勢の悪化等の地政学リスクに振らされる、値動きの荒い展開となりました。
■原油相場は、中東情勢の悪化等から急騰する局面もありましたが、米関税政策による需要減少懸念や、OPECプラス（石油輸出国機構と非加盟産油国）による増産等を受け、3月末比で下落しました。

<7-9月の見通し>

■コモディティ相場は、米トランプ政権による関税政策等を背景に、世界的な景気減速が想定されること等から、軟調な推移を予想します。
■原油相場は、中東情勢への警戒感はあるものの、サウジアラビアを中心に主要産油国が増産方針を掲げていることや、米トランプ政権の関税政策により需要減少が懸念されること等から、軟調な推移を予想します。金は、トランプ米大統領を忌避した米国資産離れの代替先と考えられること等から堅調推移を予想します。産業用メタル（銅やアルミ）は、米関税政策による世界的な景気減速等から、上値の重い推移を予想します。

チャートのデータ期間：2024年6月末～2025年6月末（出所）Bloombergより水戸証券作成

8ページの重要な注意事項（「水戸ファンドラップ」の手数料およびリスク事項について）を必ずご覧下さい。

ドル・円

140円台中心に狭いレンジで
方向感を探る展開が継続



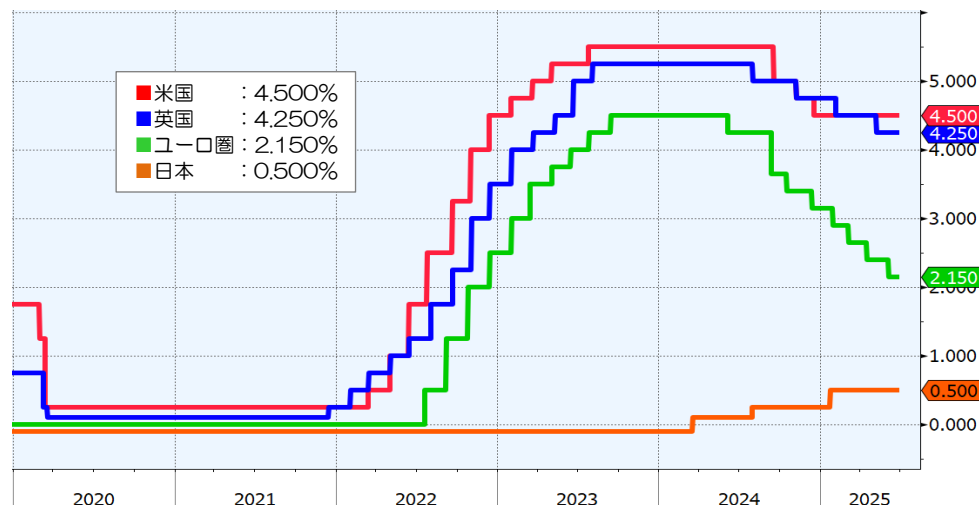
<4-6月レビュー>

■ドル・円相場は、概ね1ドル＝140円台での往来に終始しました。4月は米関税政策に伴う景気悪化懸念等からドル安・円高が進み、一時139円台を付ける場面がありましたが、米中関税交渉の進展期待等から5月半ばには148円台まで戻しました。その後は、中東情勢の緊迫化や米利下げ観測等に振られつつも、狭いレンジでの揉み合いとなりました。

<7-9月の見通し>

■ドル・円相場は、1ドル＝140円台を中心に揉み合いつつ、方向感を探る展開が続くと想定します。米関税政策の行方は引き続き不透明要因として残り、インフレや景気悪化への懸念、日米金融政策の方向性の違い（日本は利上げ、米国は利下げ）はドル安・円高要因として意識されそうです。一方で、米トランプ政権が来年の中間選挙に向け打ち出すとみられる減税・規制緩和といったポジティブな政策や、地政学リスクの再燃等はドル高・円安要因になるとみられます。今後、140円台を逸脱し相場のトレンドが明確になるか、材料待ちの状況と考えます。

4. 主要国の金融政策



※米国：FF目標金利(上限値)、英国：ボ・ソレート、ユーロ圏：リファインズ金利、日本：無担保コールレート(翌日物)

<主要国の政策金利動向>

■米国は、4会合連続で政策金利を据え置きました。利下げを急がず、米トランプ政権による高関税政策が物価や雇用に与える影響を慎重に見極める姿勢を示しました。

■ユーロ圏は、7会合連続で政策金利を引き下げました。トランプ米大統領の高関税政策で景気や物価の下振れリスクが高まり、予防的な金利の引き下げが適切と判断した形となりました。

■英国は、2会合ぶりに政策金利を据え置きました。中東情勢の緊迫による原油価格の上昇など、経済見通しの不確実性が高まっており、根強いインフレ懸念に対処する姿勢を示しました。

■日本は、政策金利を3会合連続で据え置きました。国債買い入れの四半期ごとの減額幅について、現状の4,000億円から、2026年4月以降は2,000億円に圧縮し、減額ペースを緩めることを決定しました。

チャートのデータ期間：2024年6月末～2025年6月末（主要国の金融政策のみ2019年12月末～2025年6月末）（出所）Bloombergより水戸証券作成
8ページの重要な注意事項（「水戸ファンドラップ」の手数料およびリスク事項について）を必ずご覧下さい。

5. 水戸ファンドラップの情報発信

★ 水戸ファンドラップ四半期運用報告書の発送につきまして

◆水戸ファンドラップ四半期運用報告書の発送について、作成基準日(3・6・9・12月の各月末)の翌月上旬としておりましたが、次回(作成基準日:2025年9月末)より翌月中の発送とさせていただきます。

詳細は、同封の『「水戸ファンドラップ」に関する変更のご案内』をご確認ください。



★ 動画コンテンツ「水戸ファンドラップ・マンスリーレポートについての解説」のご案内

◆弊社では、毎月発行しております「水戸ファンドラップ・マンスリーレポート」の解説動画コンテンツを、水戸ファンドラップお客さま専用ページにてご提供しております。

【ご利用方法】

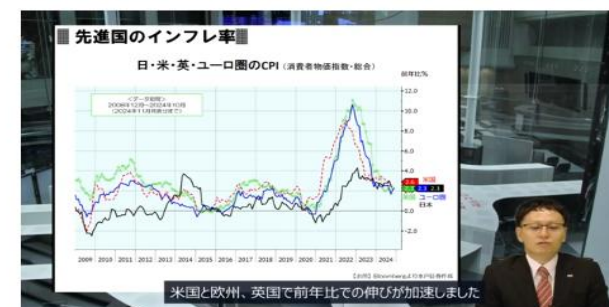
○ 水戸証券ホームページ(URL: <https://www.mito.co.jp/>) → 「商品案内」
→ 「水戸ファンドラップ」 → お客さま専用ページ「ログイン」ボタン
→ 「ユーザー名・パスワード」入力 → 「お客さま専用ページ」 → 動画コンテンツ

○ ユーザー名・パスワード

ユーザー名	0310
パスワード	0310

動画コンテンツ

水戸ファンドラップ・マンスリーレポートについての解説(毎月更新)



「水戸ファンドラップ」のリスクおよび手数料について

【リスクについて】

- ・「水戸ファンドラップ」は、投資一任契約に基づき有価証券等に投資する取引です。運用成績は、投資一任契約に基づき運用される有価証券等の価格変動に応じて変化します。
- ・「水戸ファンドラップ」が投資対象とする投資信託は、主に株式および債券等値動きのある証券（外貨建て証券は為替リスクもあります）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特にエマージング市場等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与えることがあります。したがって、投資元本が保証されるものではなく、これを割り込むことがあります。また、運用における損益は、すべて投資者としてのお客さまに帰属します。
- ・資料に示された過去の実績は、将来の結果を保証するものではありません。

【手数料について】

- ・「水戸ファンドラップ」は、運用資産残高に応じて、定期的に報酬（手数料）をご負担いただきます。報酬の体系には、「Aタイプ（固定報酬のみ）」と「Bタイプ（固定報酬＋成功報酬併用）」の2つがあり、ご契約の際、お客さまに選択していただきます。
- ・「Aタイプ（固定報酬のみ）」：残高基準日の運用資産の時価評価額に対し、最大2.090%（年率、税込）を乗じた額をご負担いただきます。
- ・「Bタイプ（固定報酬＋成功報酬併用）」：固定報酬については、残高基準日の運用資産の時価評価額に対し、最大1.567%（年率、税込）を乗じた額をご負担いただきます。成功報酬については、成功報酬評価基準日での収益相当金額に対し11.0%（税込）を乗じた額をご負担いただきます。
- ・上記以外に、「水戸ファンドラップ」が投資対象とする投資信託の信託報酬として、純資産総額に対し最大で1.7908%（税込）を乗じた額をご負担いただきます。また、換金時の基準価額に対し最大0.5%を乗じた額の信託財産留保額をご負担していただく場合があります。さらに、運用状況に応じこれら投資信託の監査費用等が別途必要になりますが、事前にその料率・上限額等を示すことはできません。

※ リスク・手数料についての詳細は、ご契約に際しあらかじめまたは同時にお渡しする「約款・規定集」、「契約締結前交付書面（A）」、「水戸ファンドラップ 契約締結前交付書面」、「水戸ファンドラップ口座約款」、「水戸ファンドラップ投資一任契約約款」、「各投資信託説明書（交付目論見書）」等をご覧ください。

水戸証券株式会社

商号等／水戸証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号
加入協会／日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

- ・当資料は、当社（水戸証券株式会社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。当資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。投資にあたりましては、ご自身の判断でなされますようお願い致します。
- ・当資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性や完全性、将来の運用成績について保証するものではありません。また、内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

